

活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外の数多くの分野で活躍する「市大人」。その中から、顕著な活動を行っている方を紹介します。

市大での出会いと学びが、今も私を支えてくれている。

(公財)広島平和文化センター 国際部 国際交流・協力課 ^{はなぶき} ^{ほるか} **花房 春香さん**
(国際学部国際学科2009年度卒業生)

広島市に就職し、現在は広島市の関係団体で、市民の国際交流活動等を支援する仕事に携わっています。所属する国際交流・協力課には、広島で暮らす外国人の方のための相談窓口の運営や、国際交流・協力に関するイベントの開催等のさまざまな業務があり、私は主に、市内の団体が行う国際交流活動への助成や、市の海外姉妹・友好都市に関するイベントの運営を担当しています。市民の方の意欲的な活動をサポートでき、街の活性化にも貢献できる今の仕事に、やりがいと責任を感じる毎日です。

在学中は、「ジェンダー論」と「法哲学」の2つのゼミを同時に受講したり、イギリスとオーストリアへの語学留学をするなど、興味のあることに積極的に取り組みました。そして、ゼミでの議論や海外でのたくさんの出会いを通じて、多様な価値観に触れ、幅広い知識と複眼的な視野を得ることができました。入学当初、あまり行動的ではなかった私が、学生時代いろいろなことに挑戦できたのは、それを可能にしてくれる大学の柔軟なカリキュラムと、応援してくださる先生方、そして士気の高い周囲の学生の存在があったからこそだと思います。

まだまだ行政職員としては未熟な私ですが、大学時代に養うことのできた「物事を多面的に考える力」を、公平性の求められる公務員という仕事に生かしていきたいと思っています。大学で過ごした4年間、そして大学での出会いのすべてが私にとっての財産です。



同僚の国際交流員と(写真左が花房さん)

学生海外語学研修補助事業に参加して

カナダ・バンクーバー

国際学部国際学科3年 ^{なかわ} ^{もえ} **中和 萌**

みなさんは「日本に対する知識の浅さ」を感じたことがありますか？ 私はこれを海外での生活を通して初めて感じました。また、海外での生活がなければ気付けなかったことだと思います。外国に興味を持つあまり、自国に関する勉強がおろそかになっていたのです。ある日の授業中、クラス内で行われたグループアクティビティ。それぞれの国の文化や言語について話すことになりました。さまざまな国の学生で構成されたクラスであったため、「自国の文化とは異なる特徴をたくさん聞くことができ面白いな」と思っていたのはつかの間。「日本のことについても教えて」と言われたとき、私は焦りました。英語でうまく伝えることができないのはもちろんのこと、それよりも、自分が何を知っていて何を伝えれば良いのかが分からなかったのです。「なんで自分の国のことなのに分からないの?」と言われたとき、私は自身の日本についての知識の乏しさを認識し、それと同時に自国の文化を知ることの重要性を見出すことができました。これからは、海外に目を向けるのはもちろん、国内のことについても知識を深め、国際交流をより充実したものにしていきたいと思っています。



語学学校のクラスメート・先生と(最後列左から4番目が中和さん)

マルタ共和国

国際学部国際学科3年 ^{おおしま} ^{ゆみこ} **大嶋 裕美子**

真っ青な海とゆっくり流れる時間。マルタは地中海に浮かぶとても小さな島国です。その地理的条件から私の研修先にはヨーロッパからの生徒が多く、滞在中日本人の数は1桁でした。そのせいか、英語のなまりにすぐに気が付きました。レベル別でクラス分けされていても、基本的にアジア圏の生徒には伝わらないヨーロッパ圏の生徒には伝わらなかったり、反対に相手の英語は出身地域や人によって分かりづらかったりしました。私はそこに世界の縮図を見たような気がしました。語学学校は留学と異なり、英語圏ではない生徒が集まる場所です。それと同様にこれから私たちが会おう世界の英語話者は決してネイティブばかりではないと思います。したがって重要なのは難しい熟語を覚えることや複雑な文章を読み解くだけでなく、いかにわかりやすく伝えられるか、なまりなども含めて生の英語に慣れているかだということに気付かされました。私はこの経験をこれからの英語学習に生かしたいと思っています。



語学学校のクラスメートと(最後列右から2番目が大嶋さん)